

研究機関名：東北大学

受付番号： 2015-1-652
研究課題名 副腎腫瘍に発現する特定因子 profile の検索と病態との関連 (後ろ向き調査)
研究期間 西暦 2010年 12月 (倫理委員会承認後) ~ 2020年 12月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料 (対象臓器名 副腎 ) <input type="checkbox"/> 生検材料 (対象臓器名 ) <input checked="" type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 上記材料の採取期間 西暦 1998年 1月 ~ 2010年 10月の期間、副腎腫瘍と診断され、もしくは副腎腫瘍が疑われて副腎切除術を受けた患者
意義、目的 副腎腫瘍は、原発性アルドステロン症およびクッシング症候群等の続発性高血圧症を生ずる。近年の診断技術の発達に伴い、その診断割合が増加してきている。その主な原因は、副腎腫瘍で過剰に合成されるステロイドホルモンが体内の電解質バランスや血管の構築などに影響を及ぼすためである。また、副腎皮質癌はその発生は稀だが非常に悪性度の高い腫瘍として知られている。しかし、これらの副腎腫瘍の発生機序や病態の詳細は未だ明らかではない。したがって、本研究では手術で切除された副腎腫瘍組織に強く発現する因子を検索しその詳細を明らかにし、今後の副腎腫瘍の治療方法に新しい可能性を提示することをその目的とする。
方法 1. 凍結組織では、特異的に発現する因子の蛋白、およびその前駆物質の核酸であるメッセンジャーRNA (mRNA)、さらにこの mRNA の発現を調節するとされる短鎖 RNA、すなわち micro RNA の発現状況をマイクロアレイ法や RT-PCR 法、ウエスタンブロッティング法で検索する。 2. パラフィンブロックを用いて、1 で検出された因子の発現状況を免疫組織化学的に解析する。 3. 1 で明らかになった因子の機能解析を行うため、副腎皮質癌培養細胞でのそれらの因子の強制発現および発現抑制を行い、細胞形質の変化を調べる。 4. 凍結組織中や血液中のステロイドホルモン濃度を、微量計測可能な液体クロマトグラフィー/タンデム型質量分析 (LC-MS/MS) で測定する。 5. 以上の結果と、臨床病理学的因子等との相関を検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 森本玲 病院腎・高血圧・内分泌科 TEL: 022-717-7163